

農林漁業のうごき

京都府 No.185 平成31年 はる号

京のブランド産品30周年
～オンリーワンのブランド化を目指して～



▲京のブランド産品30周年記念式典の開催



▲九条ねぎ



▲紫ずきん



▲ブランド産品30周年ポスター

7ページに関連記事を掲載

内容

特集 1	平成31年度 農林水産関係当初予算の概要	2～5
特集 2	農家の皆さんのチャレンジを京の農業応援隊が伴走支援	6
特集 3	新たな「京都府食の安心・安全行動計画」を策定！	7
特集 4	京のブランド戦略30年の軌跡と展望（30周年記念式典）	7
トピックス	「家畜伝染病発生時における緊急防疫業務に関する協定」を締結／ プレミアム宇治茶認証制度スタート 44点の玉露を認証／ 新たな森林管理システムが始まります！	8
シリーズ	農林水産技術センターへようこそ 第9回 農林センター	9
地域の取組	気象災害に強い農業を目指して／ 「第2回 森の京都ジビエフェア」を開催！／ 「農と環境を守る地域協働活動研修会」を開催／ 若い農業者が山城の農産物で全国商談会にチャレンジ	10～11
シリーズ	スマート技術の活用で農林水産業が変わる！ 第2回 スマートフォンで誰でも手軽に水稻の生育診断	12


 特集
1

平成31年度 農林水産関係当初予算の概要

京都府では本年秋に策定予定の新総合計画を見据え、新しい京都の未来に向けた予算（①子育て環境日本一への挑戦、②京都力を活かした文化・スポーツ・観光振興、③京の産業の新展開、④暮らしの安心・安全の向上、⑤未来を拓くまちづくり）を編成し、予算規模は、一般会計で前年度当初予算（6月補正含む）比2.6%増の9,040億200万円を計上しました。

農林水産分野においても、①産業の未来づくり、②販路拡大、③地域づくり、④安心・安全の4本柱で京都府農林水産業の活力強化と農山漁村の暮らしを守るための各取組に必要な予算として一般会計で約211億円を計上しました。

① 産業の未来づくり

〈農業の産業としての魅力づくり〉

■スマート農林水産業加速事業……………【新規 2億1,200万円】

生産現場の過疎高齢化による農林水産業の生産力低下と農山漁村コミュニティの衰退に対応するため、AI・ICT等先端技術を活用したスマート技術の実装を加速化し、農林水産業の作業性・品質・生産性を向上することで、府内農林水産業の成長産業化と魅力向上、集落維持を実現する。

■アグリイノベーション創出事業 ……………【一部新規 3,893万円】

産学官の共同研究を進めるための研究コンソーシアム形成により、革新的技術の開発と事業化を推進する。

（新）新規ブランド品目の開発やお茶の機能性に着目した調査・研究

■京都農人材育成強化事業……………【一部新規 4億6,743万円】

攻めの農業への転換を図るため、オール京都体制で「京都農人材育成センター」を運営し、京の農業応援隊による技術研修などの伴走支援に加え、段階に応じた経営研修を一体的に実施することで、高度な経営感覚を持つ農人材を育成する。

（新）茶業研究所に宇治茶実践型学舎を設置し、高い栽培加工技術を持つ担い手を育成

■京都畜産未来の担い手づくり事業……………【新規 400万円】

畜産の担い手が減少する中、畜産経営の法人化を進めることで対外信用力の向上や就業条件の改善を図るとともに、畜産法人等への就業や新規就農希望者を幅広く確保し、後継者として育成する仕組みを構築する。

■農と都市の共生社会実現事業……………【新規 650万円】

都市農業が有する多面的機能を発揮させ、都市との共生を実現するため、相談窓口の設置による農地の流動化の促進や、体験農園の開設等による交流促進などを実施する。

■新集落営農総合対策事業……………【一部新規 9,407万円】

持続可能な集落営農組織の育成に向け、多様な課題に対応した相談体制や専門家チームの派遣体制を構築するとともに、後継者の確保から経営の多角化や規模拡大まで、経営の発展段階に応じた支援を実施する。

（新）水稻栽培が中心の中北部等の集落営農組織が南部の農業法人と連携し、京野菜生産を導入する取組等を支援

■**京都農業経営強化事業**……………【**継続 1億4,120万円**】

ブランド京野菜等の生産に必要なパイプハウス・機械等の導入支援やKYO農(の)食材御用聞きによる実需ニーズの掘り起こしと産地へのマッチング支援等を実施する。

■**畜産ブランド・収益力強化事業**……………【**継続 2,366万円**】

府内産和牛の高品質化及び増産を図ることで、畜産・酪農経営の収益力を強化する。

〈**林業の成長産業化と持続可能な森林づくり**〉

■**新たな森林管理システム市町村支援事業**……………【**新規 6,800万円**】

本年4月から施行される森林経営管理法に基づき、市町村による新たな森林管理システム(※)が開始されることに伴い、その取組を支援する。

(※) 新たな森林管理システム：森林を市町村が適正に管理するため、林業経営の適否に応じて意欲と能力のある林業経営者に委託又は市町村自ら経営管理を行うもの

■**豊かな森を育てる基金積立金**……………【**継続 6億9,600万円**】

森林の多面的機能の維持及び増進を図るため、基金の積立を実施する。

「**豊かな森を育てる府民税**」を活用した事業一覧

(単位：千円)

事業名	事業概要	予算額	財源区分	
未来へつなぐ安心・安全の森づくり事業費	流木発生のおそれのある危険木の伐採・除去等	140,000	繰入	140,000
災害防止森林整備事業費(新規)	倒木や表土流出により人家等に被害を与えるおそれがある区域における、危険木の除去や簡易防災施設の設置等	100,000	繰入	100,000
人と森をつなぐ環境整備事業費	公共治山工事と一体的に行う府内産木材を利用した林内歩道等のアクセス整備	30,000	繰入	30,000
豊かな森づくり推進事業費	花粉の少ないスギ等の植栽等の支援、主伐後の環境林造成技術の確立等	16,140	国庫 繰入 一財	1,125 13,890 1,125
府民参加型里山ふれあい事業費	荒廃した里山の整備を府民公募により実施	33,000	繰入	33,000
豊かな森林継承事業費	全国育樹祭を契機とし、「木材需要の喚起・消費拡大」「森を学ぶ・体験する」「次世代の育成」をテーマにイベントを開催	6,100	繰入	6,100
伝統工芸の森プロジェクト事業費	漆等の生産拠点「伝統工芸の森」の造成等	3,000	繰入	3,000
京の森林文化を守り育てる支援事業費	地域住民による社寺の森の保全など、京の森林文化を将来に伝える取組を支援	30,000	繰入	30,000
京都の木のまち拡大事業費(新規)	府の公共施設、民間の施設や住宅などにおいて、府内産木材を利用した木造化や木質化、木製品の導入等を支援	103,354	繰入	103,354
C L T普及促進事業費	C L Tの設計等総合相談窓口の設置	1,000	繰入	1,000
京の森と木魅力発信事業費	林業や木の文化を発信するイベントの実施等	3,000	繰入	3,000
地域振興推進費	豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する広域振興局管内の森林・林業の特色に着目した事業の実施	10,000	繰入	10,000
小 計		475,594	国庫 繰入 一財	1,125 473,344 1,125
豊かな森を育てる府民税市町村交付金	豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する市町村事業に対して交付金を交付	248,903	繰入	248,903
合 計		724,497	国庫 繰入 一財	1,125 722,247 1,125

〈**マーケットニーズに応じた「つくり育てる漁業」の推進**〉

■**未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業**……………【**継続 2,270万円**】

府内産水産物の生産・流通拡大、次世代の担い手育成により漁業・漁村を活性化させる。

② 販路拡大

〈京都ブランドを活かして新たな市場を開拓〉

■農商工連携・ビジネス支援事業……………【一部新規 7,932万円】

生産者の新たなビジネスチャレンジ支援や経営体の輸出支援（相談窓口、専門家派遣等）、ブランド力向上・流通拡大支援（新商品開発等）に加え、新たに農商工連携支援を強化することで、府内農林水産物の販路拡大を図る。

■「おいしい京都」府内戦略事業……………【継続 2,501万円】

府内において、きめ細やかな消費拡大策による農林水産物の販売戦略を実施する。

■「おいしい京都」首都圏戦略事業……………【一部新規 1,300万円】

メディア等の発信力が高い首都圏における京野菜等の需要拡大を図る。

■「おいしい京都」世界戦略事業……………【一部新規 2,100万円】

認知度向上による需要拡大のため、海外でのフェア開催や「京もの提供店」の海外展開等販売促進活動を実施する。

（新）香港、シンガポールに続き、台湾へ展開を拡大

■宇治茶新展開セカンドステージ事業……………【一部新規 400万円】

宇治茶の新たな需要の創造と海外発信を展開する。

（新）インバウンドに対応した宇治茶案内人の養成等

■林業「森世紀」創造戦略事業（販路拡大）……………【一部新規 2億1,085万円】

CLTを含めた府内産木材の利用を促進し、公共施設や民間施設等における需要を拡大するとともに、府民に対し木材利用や木の文化を発信する。

（新）府内産木材の利用を促進する住宅等向け交付金において対象等を拡大

■「京のプレミアム米」創造事業……………【一部新規 6,490万円】

国の米政策の見直しを踏まえ、オリジナル良食味米の開発、情報発信を進めるとともに、「京の米」の新たな需要を創造し、市場・販路拡大を展開する。

③ 地域づくり

■「農・観」連携地域コミュニティ応援事業……………【新規 1,800万円】

野菜の収穫体験の実施等農山漁村の実りや暮らしを体験できる地域資源を磨き上げ、地域をまるごと滞在施設化する取組を支援し、地域振興を図る。

■京都移住促進プロジェクト事業……………【一部新規 2億3,843万円】

農山漁村の担い手が減少する中、新たな担い手の確保を核とした都市との共生によるまちづくりを総合的に推進し、活力ある地域を創出する。

■農村型小規模多機能自治推進事業……………【継続 1億7,934万円】

農山漁村の過疎高齢化が進む中、小規模農家も含めた農山漁村全体を守る地域活動を強化するため、外部人材の活用を含めた地域の基盤づくりや、地域資源を活用した「なりわい」づくりから企業と提携したビジネスへの発展までを一体的に支援し、トータルマネジメントを行う農山漁村コミュニティ（農村型CMO（※））の形成を支援する。

（※）農村型CMO:地域活動と収益活動を一体的に運営する農村コミュニティ法人

■耕作放棄地再生推進事業……………【継続 1,225万円】

移住者等の営農活動や再生作業等の支援及び京都モデルファーム運動の推進により、耕作放棄地の再生・活用を促進する。

■京都モデルフォレスト推進事業……………【継続 500万円】

森林所有者、ボランティア団体、企業等が連携した府民参画、府民協働による森づくりを推進する。

■林業「森世紀」創造戦略事業（豊かな森を育てる府民税市町村交付金）…【継続 2億4,890万円】

豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する市町村事業に対して交付金を交付する。

4 安心・安全

〈暮らしを守る〉

■森林災害防止事業……………【一部新規 30億8,078万円】

平成30年台風21号による風倒木被害からの復旧と流木被害の未然防止対策を更に強化することにより、府民の安心・安全を確保する。

（新）倒木や表土流出により人家等に被害を与えるおそれがある区域において、市町村と連携して危険木除去等防災対策を実施

■有害鳥獣総合対策事業……………【一部新規 5億5,150万円】

メスジカ等の捕獲強化や捕獲個体の処理施設の整備、防護柵の整備の支援、担い手育成等により農作物被害対策を推進する。

■豊かな里山再生事業……………【継続 2,900万円】

森林病虫害の被害を防止し、里山の再生等を推進する。

〈食の安心・安全と食育の推進〉

■きょうと食いく先生活動拡大・強化事業 ……………【新規 910万円】

「きょうと食いく先生」の派遣、地域の食育支援活動、若い世代を対象とした食育出前講座の開催等により体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進する。

（新）大学生等を対象とした食育出前講座の開催

■食の安心・安全推進事業……………【継続 200万円】

食の安心・安全行動計画改定等を踏まえ、関係部局が連携し、食品表示の監視・指導、食に関する情報発信を強化する。

平成30年度 2月補正予算（国補正関係）の概要

京都府では公共事業等について、国の補正予算も積極的に活用しながら進めるために府議会2月定例会で冒頭提案を行い、平成30年度2月補正予算において、一般会計で142億15百万円を計上しました。このうち農林水産分野では21億35百万円を計上しました。

■農林水産業基盤整備事業……………【継続 21億3,500万円】

ブランド京野菜などの生産振興により、京都の農林水産業を未来につなげるため、生産基盤を整備するとともに、農山漁村地域の整備、防災・減災対策を実施する。

特集
2

農家の皆さんのチャレンジを

京の農業応援隊が伴走支援

京の農業応援隊は、農業・商工業の関係機関が一体となり、農家の皆さんの経営計画やニーズなどに応じて、技術支援や各種事業の提案等、経営力アップに向けた取組をお手伝いします。

【主な支援内容】

- ①新技術の導入や新たな販路の開拓
- ②「農地集積」等による農地確保や経営規模の拡大
- ③6次産業化・農商工連携等による経営の多角化等



京の農業応援隊

地域農業応援隊（5ブロック）

隊長：各農業改良普及センター所長
（京都乙訓・山城・南丹・中丹・丹後）

- 経営支援員（商工会議所・商工会）
- 市町村
- JA 営農指導員
- （一社）京都府農業会議現地推進役
- 振興局農林商工部（企画調整室・商工労働観光室）
- 家畜保健衛生所
- 農業改良普及センター

生産支援

新技術導入



ネギの病害虫対策のため、赤色ネットを使った新技術を導入

新規就農者の定着



新規就農者等の良質茶生産に向けた茶樹の整枝・剪定技術の向上

経営拡大

農業と観光業とのコラボ



観光協会、商工会も加わり、農業、農村体験メニューづくりにより、観光地域づくりを推進

農商工連携



小麦や小豆を生産する農業法人を中心に、パン業者・製粉業者も加わり、地域連携による新商品開発、販売促進の取組を推進

販路拡大

百貨店・ホテル等への販路拡大



丹後産フルーツのほ場見学や農業者との交流会で実需者とのマッチングを促進

新しい販売方法の提案

商工会議所の事業制度を活用し、軽食やお弁当などをその場で調理提供できる「キッチンカー」を導入



ご相談は最寄りの農業改良普及センターへ

農産課 農業応援伴走支援担当 TEL：075-414-5989

特集
3

新たな「京都府食の安心・安全行動計画」を策定!

「食」を取り巻く情勢は、食品衛生法の一部改正によるHACCPに沿った衛生管理の制度化や食品表示法に基づく原料原産地表示の義務化等、大きく変化しています。京都府では、このような新たな課題に対応し、府民の安心・安全を強化するため、「2つの柱」(*)を中心とする「第5次京都府食の安心・安全行動計画」(H31~33(2021))を策定しました。



食の安心・安全に関する消費者と事業者の意見交換会

(*) 府民の安心・安全を強化する「2つの柱」

＜第1の柱＞新たな法制度に適應できる食品関連事業者等の育成

→事業者向けのHACCP・食品表示研修会の開催、生産から流通までの監視指導等

＜第2の柱＞食の信頼感向上に向けた情報の提供と府民の食の選択力向上

→事業者等と府民の意見交換会、食の府民大学の講座拡大、食文化伝承授業等

京都 食 行動計画

検索

食の安心・安全推進課 食の安全担当 TEL : 075-414-5654

特集
4

京のブランド戦略30年の軌跡と展望 (30周年記念式典)

「京野菜」は今や全国的な有名ブランドとなりましたが、その取組は、「京のブランド産品^{*}」の認証が始まった平成元年まで遡ります。生産者、JA、流通関係者、小売業者、料理店と、様々な方の30年にわたる努力により、高品質な府内産農林水産物が皆さんの元に届くようになったのです。京都府も技術開発・指導に尽力し、産地拡大に取り組んできました。その結果、京都府全体の野菜生産額の増加につながりました。



生産者らへの感謝状贈呈の様子

このブランド産品30周年を記念した式典が1月27日に開催されました。京みず菜や九条ねぎの新しい食べ方の普及や海外への広がりなど、これまでの挑戦的な取組を振り返るとともに、「オール京都」で高品質、安心・安全な京野菜の生産に取り組んでいくことを再確認しました。



パネルディスカッションの様子

※優れた京都の農林水産物の中でも、安心・安全と環境に配慮した生産方法に取り組み、品質・生産地を厳選したものを京のブランド産品として認証しています。

京都のやさい 京野菜

検索

流通・ブランド戦略課 ブランド推進担当 TEL : 075-414-4941

トピックス

「家畜伝染病発生時における緊急防疫業務に関する協定」を締結 安心・安全づくり

府内で高病原性鳥インフルエンザや豚コレラ等の家畜伝染病が発生した際に、「殺処分した家畜の埋却作業」や「発生農場の消毒」等の緊急防疫業務に関する協力体制を強化し、迅速かつ的確に防疫業務を実施するため、一般社団法人京都府建設業協会（9/14）及び京都府ペストコントロール協会（12/4）と協定を締結しました。

今後も家畜伝染病のまん延防止に努めていきます。



協定調印式の様子

畜産課 家畜衛生担当 TEL：075-414-4985

プレミアム宇治茶認証制度スタート 44点の玉露を認証 ものづくり・販路づくり

高品質な宇治茶の品質を保証し、消費者の皆さんにわかりやすく伝える「プレミアム宇治茶認証制度」が新たにスタートしました。棚被覆栽培によって生産される高級な府内産一番茶を100%使用し、一定水準以上の品質を備えていることを条件に、この度、16業者44点の玉露が、（公社）京都府茶業会議所により認証され、2月から販売されています。

今後も宇治茶の新たな販路拡大に向けた取組を進めていきます。



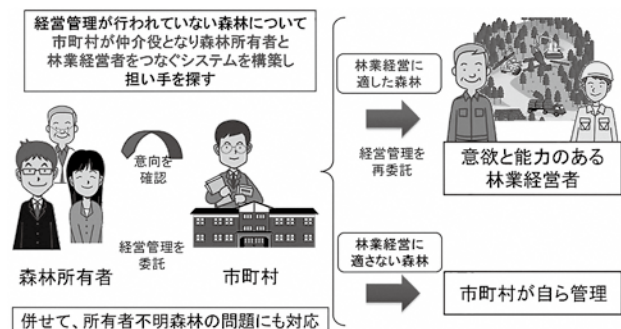
シンボルマーク
(平成31年2月)

農産課 宇治茶・特産振興担当 TEL：075-414-4944

新たな森林管理システムが始まります！ 森林・緑環境づくり

森林経営管理法に基づく「新たな森林管理システム」が平成31年度からスタートします。

近年の度重なる山地災害の発生により森林保全の必要性が高まる中、適切な管理がされていない森林について、所有者の意向を確認の上、林業経営に適した森林は、意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化する一方、林業経営に適さない森林は、市町村が管理することによって、林業の成長産業化と適切な森林管理の実現を目指します。



新たな森林管理システムのイメージ図

林務課 企画・計画担当 TEL：075-414-5016

シリーズ 農林水産技術センターへようこそ

京都府の研究機関の研究内容や成果をご紹介します

第9回

農林センター

平成30年度に取り組んでいる研究内容を皆様にご紹介します。

研究1 賀茂ナスの最適台木品種の選定

府内農家の賀茂ナス栽培では、土壤病害を防ぐため、土壤病害に強い根を持つ台木品種との接ぎ木栽培が行われてきました。しかし、現在主流となっている台木品種は、夏期の高温耐性が劣り、根で吸収された水分が果実へ供給されにくいいため、収量や品質の低下が問題となっています。

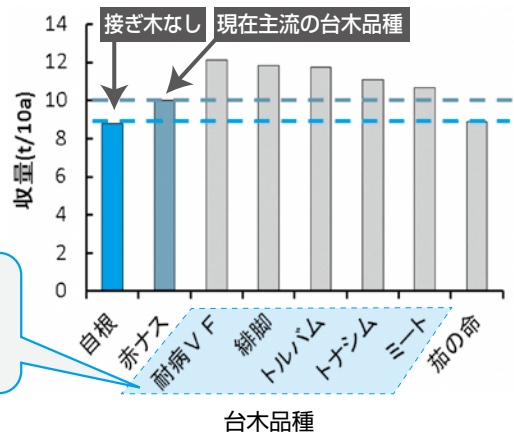
そこで、農林センターでは、高温耐性に優れ、収量が多い台木品種を明らかにしました。

今後は、更に最適な台木品種を絞り込むとともに、その品種に合った栽培条件や栽培方法をマニュアルにまとめ、農家の経営安定に役立てていきます。



台木品種との接ぎ木

接ぎ木なしの場合や現在主流の台木品種と接ぎ木した場合と比較して、収量が多い台木品種が明らかになりました。



農林水産技術センター 農林センター 園芸部 TEL : 0771-22-6492

研究2 丹後地域の果樹産地の強化を目指して

京都北部の丹後地域は、ナシやブドウ、モモ等、府内で最も盛んに果樹栽培が行われています。主力品目は二十世紀系のナシで、一定の基準を満たしたものは、京のブランド産品「京たんご梨」※として販売されています。

しかし、近年の不安定な気象などの影響により、ブランド規格に満たないナシが発生しており、将来的には収益の低下が心配されています。そこで、「京たんご梨」の秀品率を高める技術と、収益性の高いブドウ品種の導入により、既存の品目と組み合わせた最適な栽培体系を確立することで、丹後地域の果樹産地の強化を目指しています。

※京たんご梨：以下の条件を満たす二十世紀系品種
 ①外観が綺麗（秀品）
 ②大きさがL以上
 ③糖度が11.5度以上



京のブランド産品に指定されている「京たんご梨」

省力的に栽培できます



「BKシードレス」

皮ごと食べられるので大人気です



「シャインマスカット」

農林水産技術センター 農林センター 丹後特産部 TEL : 0772-65-2401

地域の取組

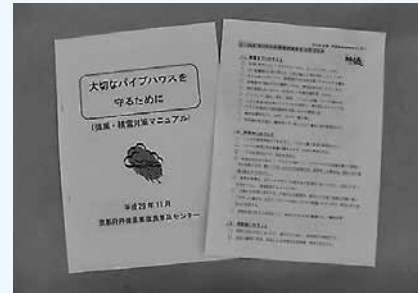
丹後

気象災害に強い農業を目指して

近年、丹後地域において台風や豪雨、積雪等により、農作物の被害が多く発生していることを受け、被害の軽減につながる取組を進めています。

今年度は、特に台風と積雪への対応について重点的に取り組み、管内農家向けに『強風・積雪対策マニュアル』や、降雪程度に応じた除雪方法を記載した『パイプハウスの雪害対策チェックリスト』を作成して配布し、対策の実施を広く呼びかけました。

今後も、気象災害に強い農業を目指し、情報の発信を強化していきます。



(上) 作成したマニュアルとチェックリスト
(下) 配布して対策を呼びかけている様子

丹後広域振興局 農林商工部 丹後農業改良普及センター TEL : 0772-62-4308

中丹

「第2回 森の京都ジビエフェア」を開催！ ～地域活性化と消費拡大をめざして～

「森の京都」の魅力ある食材のひとつ、ジビエ（シカ肉・イノシシ肉）の消費拡大のため、森の京都DMO、南丹広域振興局との共催により「森の京都ジビエフェア」を開催しました。

今年度は、ジビエをより多くの方に味わっていただくため、開催期間を延長するとともに、スタンプラリーを新たに実施しました。参加店舗は、62店舗に増え、消費者の皆様からは、「くさみもなく、おいしくて感激！」「子どもが好きなようで、家庭でも作りたいです。」と好評でした。

今後もジビエが「森の京都」の食材として親しまれ、地域の活性化につながることを目指していきます。



森の京都ジビエフェア
リーフレット表紙

中丹広域振興局 農林商工部 企画調整室 TEL : 0773-62-2508

南丹

「農と環境を守る地域協働活動研修会」を開催 ～京都府農地・水・環境保全向上対策協議会 南丹ブロック～

2月7日（木）、ガレリアかめおかにて、多面的機能支払交付金等の活動組織の役員約300名が集い、農と環境を守る地域協働活動研修会を開催しました。



講師の話に耳を傾ける参加者（会場）
（平成31年2月7日）

参加者の皆さんは、地域ぐるみで策定する農地や水路等農業用施設の保全に関する構想や活動組織の広域化、更には水路の目地補修を事例とした直営施工方法などを学びました。

参加者からは、「住民の減少や高齢化は、これからも進むと思うが、地域で協力し合って活動を継続したい。」といった意見が聞かれ、農業と農村環境を守る住民活動の持続的展開に期待が寄せられていました。

南丹広域振興局 農林商工部 地域づくり推進室 TEL：0771-22-0153

山城

若い農業者が山城の農産物で全国商談会にチャレンジ ～山城の個性を集め、強みに変える事業を活用～

2月20日（水）～21日（木）に、ATCホール（大阪市住之江区南港）で行われたアグリフードEXPO大阪2019に山城北農業改良普及センターが参加しました。

当日は、「京のやましろ♪いとをかし♪」の名称でブースを構え、山城管内の女性・有機農業者ら5経営体が山城地域の優れた農産物・加工品を出展し、併せて、新規参入者・農業青年ら16名も、他産地や業者のブースを見学・視察研修しました。

商談の経験が少なく、単独での参加に踏み切れないでいた経営体からは、「商品を見せるだけでは足を止めてもらえず、工夫が必要。」また、見学者からは、「是非、商談会に参加していきたい。」などの感想が聞かれ、今後の経営の展開・飛躍が期待されています。



出展ブースで加工業者と情報や名刺を交換
（平成31年2月20日）

山城広域振興局 農林商工部 山城北農業改良普及センター TEL：0774-62-8686

シリーズ スマート技術の活用で農林水産業が変わる！

第2回 スマートフォンで誰でも手軽に水稻の生育診断

良食味米の生産には、イネの生育量に応じた追肥を行うことが大切です。これまでは、イネの莖数や葉色などを実測することで生育量を把握していたため、多くの時間と労力、生育調査の技術が必要としていました。

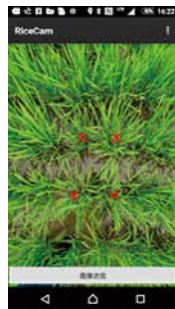
そこで、京都府農林水産技術センター農林センターでは、京都大学と共同で、スマートフォンで撮影したイネの画像から生育量を推定し、追肥の適正量を診断するアプリ（Rice Cam）を開発しました。

このアプリにより、誰でもスマートフォンを使って、手軽に適正な追肥量を知ることができ、栽培経験の少ない新規就農者などでも良食味米の生産に取り組みやすくなるなどの効果が期待できます。これからの水稻栽培経営*に広く活用可能な最新スマート技術として、早期の実用化を目指しています。***酒米にも対応しています。**

更に今後は、中干しや刈取の適期判断などの機能も加え、より安定して良食味米の生産ができるよう研究を進めます。



スマートフォンの画面上でイネ4株（×印）をタッチパネルで指定



アプリ (RiceCam)




植被率（植物の占める割合）から生育量を推定

診断結果

あなたの田んぼの生育量 **87.0**


おすすめの窒素施肥量は、**1.4kg/10a**

流通・ブランド戦略課 研究推進担当 TEL：075-414-4968
 農林水産技術センター 農林センター 作物部 TEL：0771-22-5010

お知らせ

家畜を飼育している皆さんへ

2月1日時点の飼養状況の報告が法律で義務化されています



報 告 期 限

毎年 4月15日 **毎年 6月15日**
（牛、馬、めん山羊、豚など） （鶏、あひる、だちょうなど）

お問合せは、最寄りの家畜保健衛生所へ

お知らせ


農
作
業
安
全

～平成31年春の農作業安全運動開始～

一人一人の安全意識と仲間との「声かけ」が農作業事故を防ぎます！

運動期間：4月1日～6月30日

春の農繁期、田植機やトラクター等の操作には十分注意して、農作業事故を防ぎましょう。



発行／平成31年3月

編集／〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府農林水産部農政課 TEL：075-414-4946 E-mail：nosei@pref.kyoto.lg.jp

京都府人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」は、「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした歌です。歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか

公式ホームページ <http://www.jinendo.co.jp/sekaigahitotsunokazoku/>